

川津幼稚園涙腺崩壊物語

その朝、街には冷たい雨が降っていた。「旅立ちの日なのに何てこった」男は軽く舌打ちをして幼稚園の門をくぐった。そう、今日は川津幼稚園の修了式。11名の園児の晴れ姿をお祝いするためやってきたのだ。いつもはジャージ姿の先生方が、今日ばかりは華やかなコサージュを付けたスーツ姿で出迎えてくれる。

園児たちが颯爽と入場し席に着いたところで式が始まる。開式の辞を述べる教頭先生の声は既に上ずっている。そして一人一人に園長先生から修了証書が手渡される。園児たちは修了証書を受け取ると、高く掲げ「ありがとうございます」とお礼を述べ、深々とお辞儀をする。そして保護者席に歩み寄り、お母さんに「お弁当をありがとう」などと感謝の言葉を述べて修了証書を手渡すのだ。この時点でお母さんは、健気な我が子の姿に感極まって目頭を押さえる。

一方修了証書を手渡す園長先生は、4・5人目から声が震えてくる。それでも涙をこらえて修了証書を渡し終えろと、式辞を述べられるのだが、ほとんど涙声。傍らの教頭先生はハンカチを握りしめ、肩を震わすほどの号泣。続いてPTA会長さんの祝辞。彼もまた涙声で何度も詰まりながら、もうグダグダである。そして遅しく育った園児たちが思い出を語る頃には、先生も保護者も式場全体が涙腺崩壊状態。クールを装った男の涙腺もあっけなく決壊した。

毎年、小中学校の卒業式に参加してきたが、これほどまでに式場全体が感動の涙で満たされたことはない。幼稚園は園児と先生と保護者の関係が濃密で、園児に対する有り余る愛情が、涙となって溢れ出ているように思えた。式が終わって外に出ると、雨はすっかり上がって春の陽射しが降り注いでいた。